

風景画の描き方

『絵に描いたようにきれいな景色だね』

多くの方が、素敵な風景をほめる時、「絵のような(絵がキミみたい)」という言い方をします。絵に描かれた風景は、本当の風景より、魅力的なんやろか。実は、そうなんです。

家のまわりや日常的な景色は、普段なにげなく眺めて過ぎていきます。でも、「絵を描く」とか、「写真を撮ろう」と思ってしばらく歩きまわってみると、いろいろと新しい発見や好きなく(気になる)景色に出会います。絵を描くという気持ちか、脳を右脳に切りかえているのですが、見ようとするときに見えてくる、おもしろいものは、いっぱいあるんです。

気にいった場所を、自分のイメージで描いた風景は、写真とは全く違います。色も形も、そっくりじゃなくていいんです。その絵を見る人も、実際の風景や写真と並べて見るわけではありません。

「あ、ええなあ、きれいなあ。」とか、「こんな場所もあったんや。」
「あの人は、こんな見方(感じ方)をしんやなあ、私と似てるなあ。」とか、絵を見て、また新しい発見をする。感動したり、びっくりしたり、共感したり。

そのあとで、もとになった場所や似た風景を見ると、妙になつかしい感じがしたり、「〇〇さんの絵のように、空と雲がきれいなあ」とか、今まで、あまり気にとめなかったような風景が、ええ感じに思えてきたりする。

風景画は、作者の想い(きれいな、おもしろい、カッコいい、なつかしい、春だね、暑すぎ、など)が、色や形に表われて、その風景の良さを引き出しているから、(普通の)写真などより、素敵なんだ。

1 気にいった場所選び

窓から見てみる。スケッチブック(小さな紙)を持って散歩してみる。カメラで撮ってみてもいい。旅先で時間があればさがしてみても、

「絵になる風景」とは、「絵葉書的な風景」ではない。

石や木や、町角、さびた手すりや、雑草の中に咲いている小さな星のような花、木もれ日、広々とした町並みなど、自分の目をズームして、広々としたものから足もとまで眺めてみよう。



① 公園の石



② ベンチと木



③ バランダー



④ 団地の風景



⑤ 街路樹

2 構図が大切



こういう、平べったい絵にならないように。
X ものものが重なっていない。
X 横線(地面?)の上には立っている。
X 葉っぱが横にしかない。

○ 縦でも横でもよい。

○ 手前の地面などを入れる。(◎◎◎◎) 自分が歩いて、絵の中に入って行ける感じにする。

○ 物と物の重なりを。重ねれば奥行きができる。